

令和 7 年度（2025 年度）

## 第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

### 議 事 録

日 時：2025 年 11 月 13 日（木）午前 10 時開会  
場 所：斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

## 1. 開会

●事務局（北海道 島村） ただいまから、令和7年度第1回知床世界自然遺産地域連絡会議を開催いたします。

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます北海道環境生活部自然環境局自然環境課の島村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の地域連絡会議は斜里町での開催となりまして、Z o o mによるオンライン会議システムを併用しております。オンライン参加の皆様におかれましては、発言時を除きまして音声をお断りしていただきますようお願い申し上げます。

## 2. あいさつ

●事務局（北海道 島村） それでは、開会にあたりまして、北海道環境生活部自然環境局長の新井田より挨拶申し上げます予定でしたが、急遽、用務の都合により本日欠席となりましたので、恐縮ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。

改めまして、道庁自然環境課の島村と申します。

本日は令和7年度第1回知床世界自然遺産地域連絡会議にご参集くださいまして、誠にありがとうございます。

本日お集まりの皆様におかれましては、日頃から自然遺産の保全管理にご尽力いただいておりますことに、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

この連絡会議は、遺産の適正なあり方を検討するため、地域の皆様からのご意見を伺う重要な機会でございます。本日は、科学委員会からの報告のほか、世界遺産委員会決議や地域管理計画改定に係る報告、また、会議の後半では、地域の課題について意見交換をする時間を設けておりまして、現在、ヒグマ対策連絡会議を中心に、人身事故の検証や再発防止策の検討が行われておりますが、これらのテーマも含めてご意見を頂戴できればと考えております。

また、午後には、公益財団法人知床財団様の主催により、世界自然遺産登録20周年記念シンポジウムが開催されることとなっております。登録20周年を迎え、普遍的な価値をよりよい形で後世に引き継いでいくために、改めてお集まりの皆様のご協力をお願い申し上げます。

続きまして、開催地の斜里町の山内町長よりご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

●山内斜里町長 皆さん、おはようございます。

11月も中旬となりまして、知床峠も冬支度のなりわいとなりました。

本日は本当にご多忙のところ、オンラインも含め、会場にもお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。開催地の斜里町として、一言、ご挨拶を申し上げたいと思います。

日頃より本連絡会議を構成しております環境省、林野庁、北海道をはじめ、それぞれの機関や団体の皆様、また羅臼や網走の漁協、観光協会、斜里町の観光協会、事業者の皆様、また地域の皆様、知床世界自然遺産の適正な管理保全に日頃からご尽力を賜っておりますことを、この場を借りて深く感謝を申し上げたいと思います。

まずは、本年、記憶に新しいと思いますけれども、羅臼岳においてヒグマによる痛ましい人身事故が発生いたしました。お亡くなりになられた方には謹んで哀悼の意を表し、ご遺族の方にもお悔やみを申し上げたいと思います。この事態を重く受け止め、関係機関と地域で改めてこの事実を共有して、安全最優先の下、必要な検証と改善が着実に進められることと、その重要性を強く感じているところでございます。

一方で、本年は、知床が世界自然遺産になってから20年の節目を迎える年でもございます。昨年度に引き続き、斜里町、羅臼町では、アドベンチャーフェスティバルや関連フォーラム、世界自然遺産ネットワーク会議等、学びと対話の機会を重ねてまいりました。さらに、今年は大阪関西万博において、日本の世界自然遺産の一員として、知床の保全と持続可能な利用の取組をPRする機会をいただきました。流氷に育まれ、海から陸へ連続する生態系、そして、地域が積み上げてきた協働の仕組みを国内外に発信できたことは、節目の年にふさわしい成果であったと考えてございます。

本日の会議では、先ほどもございましたけれども、科学委員会の各ワーキンググループの検討状況等について、第47回世界遺産委員会の決議について、世界自然遺産地域管理計画改定に係る対応についてご審議いただくこととなっております。いずれも顕著で普遍的な価値を確実に次世代へ手渡すための中核的なテーマでございます。未来に向けた知床の海と陸、保全と利用、暮らしとなりわいの調和につながるものと考えてございます。

また、本日の連絡会議の後、午後からですが、先ほどもございましたように、節目の年にふさわしく、世界自然遺産20周年記念知床シンポジウムが開催されます。地域全体で振り返り、地域全体で知床を次代へと受け継いでいく手がかりとなるよう、強く期待を寄せているところでございます。

結びでございますが、本連絡会議が、率直で忌憚のない議論を通して知床に対する多くの思いを共有できる有意義な場となりますことをご期待申し上げ、ご挨拶といたします。

本日は、よろしくお願いいたします。

●事務局（北海道 島村） ありがとうございました。

#### ◎連絡

●事務局（北海道 島村） それでは、本日の配付資料の確認です。

次第の裏面に配付資料の一覧を掲載しておりますので、ご確認いただき、資料の不足等がございましたら事務局までお申出願えればと思います。

### 3. 議事

●事務局（北海道 島村） それでは、議事次第に沿って進めてまいります。

事前にお伝えしておりますとおり、本日は、後半に地域の皆様と意見交換をする時間を設けたいと考えております。そのため、資料につきましては、事前にお目通しいただきたく、会議前に皆様には送付させていただいております。

これまでは、会議の大半を事務局からの説明や報告に使っていましたが、これまでの皆様方からの多くの意見を踏まえまして、今回からは事前に資料を送付させていただき、あらかじめご一読いただいた上で、当日の説明はできるだけ簡潔にして、なるべく後半の意見交換の時間を多く設けたいと考えております。

それでは、次第に沿って進めてまいります。例年の会議では、地域連絡会議の下部組織である知床ヒグマ対策連絡会議、シンボルマーク管理運営部会などの報告をしているところですが、こちらにつきましては、3月に予定しています次回の地域連絡会議の際に令和7年度分としてまとめてご報告させていただきますので、ご了承くださいと思います。

議事（1）知床世界自然遺産地域科学委員会各ワーキンググループでの検討状況等について、に入りますが、こちらにつきましても、各ワーキンググループの取組は、先ほどの理由と同様に、資料配付のみで、説明は割愛させていただきたいと思います。

それでは、議題（1）科学委員会での検討状況等につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（環境省 鈴木） 環境省釧路自然環境事務所の鈴木より、科学委員会の検討状況についてご報告申し上げます。

資料1-1-1をご覧ください。

まず、科学委員会ですけれども、10月10日にこちらの会場で開かれまして、議事は五つほどございました。

（1）各ワーキンググループ等の検討状況については、資料1-2から1-6に添付しておりますので、詳細な説明は割愛させていただきます。大きなトピックとしては、特に岩尾別川において、秋のヒグマ撮影を目的とした交通渋滞や危険事例が発生していることに関して、今年度から新たに注意喚起や監視カメラの設置等の取組等を開始し、その最新状況や課題の解決策に関する議論がなされました。

（2）第47回世界遺産委員会決議への対応については後ほど改めて説明いたします。

（3）世界自然遺産地域管理計画を見直し作業予定についても後ほど改めてご説明いたします。

続いて、（4）携帯電話基地局整備に係る対応状況ですけれども、知床半島における携帯電話基地局整備について、令和6年度第2回科学委員会以降の進捗等が報告されました。概要としては、ニカリウス地区における携帯電話基地局の整備に関して、より迅速に地域の皆様の安全・安心を確保するため、携帯電話基地局の建設については一旦立ち止まりまして、新たな衛星通信技術を活用した通信環境確保の検証に注力するという方針が10月

に地域で合意されましたので、その内容と、各委員会のご助言を受けて進められていた環境調査の状況について報告がなされたところです。

(5) その他には、羅臼岳で発生した人身事故について、また、令和6年度版知床白書の案について、こちらは先日、ウェブでも公開が完了しております。加えて、知床世界自然遺産登録20周年の振り返りについて報告がなされております。説明は以上です。

●事務局（北海道 島村） ただいまの報告に関しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。なお、ご発言の際には、所属とお名前の順で発言をお願いいたします。

（「発言なし」）

●事務局（北海道 島村） ないようですので、次の議事に進みます。

続きまして、(2) 第47回世界遺産委員会決議につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（北海道 黒田） 北海道環境生活部の黒田から説明させていただきます。

資料2-1、資料2-2、資料2-3が世界遺産委員会決議についての資料になっておりますので、こちらの資料をご覧くださいと思います。

資料2-1につきましては、世界遺産委員会での決議案の原案で、英語になっておりますが、こちらを日本語で和訳したものが資料2-2になりますので、資料2-2を使って説明いたします。

本年の7月に第47回世界遺産委員会で知床世界自然遺産の保全状況について決議されました。

決議内容につきましては、資料2-2の3ページ目の真ん中より下以降に1番から順に番号を振って、項目ごとに記載されておりますので、こちらに沿って説明いたします。

決議1、決議2については、例年のものとなっておりますので、決議3以降から説明します。

決議3は、気候変動の影響に関する長期モニタリング等について、引き続き資源を確保する、長期モニタリングを継続してデータを蓄積していくことを要請しますというものです。

決議4は、トドの個体群管理について、令和6年度に改定されたトド管理基本方針による個体群管理について歓迎している、引き続き持続可能な漁業管理を要請する、とされております。

決議5は、海鳥の減少について、継続的にモニタリングを進め、個体群維持のための対応をモニタリングと並行してやっていくように要請されております。

決議6は、長期モニタリング計画の実施を引き続き要請する。

決議7は、河川の生態系のモニタリングと改善の継続を奨励する。

決議8は、知床岬での携帯電話基地局建設が中止されたことを受け、遺産地域において、OUVに影響がありそうな開発については、しっかりと環境社会影響評価を行うことの再確認です。

最後の決議9は、2027年、再来年の12月までに保全状況報告等を世界遺産センターに提出を要請するというものです。

以上が決議内容となっております。

これまでは、おおむね1年後をめどに提出を求められていた保全状況報告ですけれども、今回は2年後と少し長めの期間が設けられております。全体としては、これまでの遺産管理の取組について高い評価がなされており、引き続き取組の継続を求めるという内容となっております。

続きまして、資料2-3に移ります。

今回の決議を受けて、今後の対応について説明いたします。

この資料につきましては、10月の科学委員会に提出したもので、特段の修正意見はございませんでしたので、そのまま本会議の資料としております。

資料2-3の右の欄に対応の方針案を、先ほど説明した決議の番号を振って記載しております。

それぞれの勧告内容について、科学委員会、担当しているワーキング、アドバイザー会議の助言を受けつつ、こちらの地域連絡会議及び事務局等で引き続き対応していくこととしております。

3ページ目に作業スケジュールを記載しておりますが、来年度の2026年後半より、保全状況報告書の調整を開始しまして、科学委員会と地域連絡会議において改めて検討を行いまして、2027年の12月1日の提出へ切に向けて取りまとめを進めることとしております。最初は、一番上段に書いてあります報告書の骨子の検討から、来年度以降に進めさせていただく予定です。

以上、世界遺産委員会の決議の内容と、今回の決議を踏まえた対応方針、作業スケジュールについての説明を終わります。

●事務局（北海道 島村） ただいまの報告に関しまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

●羅臼町産業創生課飯島課長 ちょっとしたことですが、資料2-2の下線部分はどういう意味になるのでしょうか。

●事務局（環境省 鈴木） 3ページの決議案のところですね。

これは、具体的に世界遺産委員会から対応を求められている部分について、分かりやすいように下線を引いているという意図です。

●事務局（北海道 島村） ほかにございませんか。

●湊屋羅臼町長 これも文言の話になってしまうのだけれども、ここはちゃんと確認しておかなければいけないと思うのは、資料2-3の8番に「携帯電話基地局、施設の建設が中止」となっています。中止という表現をしたことは今までないと思うのです。一旦、立ち止まった上で、ということなので、今日は報道もいますから、中止になったよ、ということが先走ってしまうと困るので、ここの文言の書き方は注意していただいたほうがいい

と思います。

●事務局（環境省 鈴木） この「報告を受けていた」というのは知床岬の基地局に関する報告のことです。岬のところが中止になったということでこの記載がなされているという解釈でよろしいかと考えております。ニカリウスについては立ち止まってということで、齟齬はないと考えております。

●湊屋羅臼町長 了解しました。

●事務局（北海道 島村） ほかにございませんか。

（「発言なし」）

●事務局（北海道 島村） ないようですので、この方針、スケジュールで進めていきたいと思います。

続きまして、議事（３）世界自然遺産地域管理計画改定に係る対応につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（環境省 鈴木） 釧路自然環境事務所の鈴木です。

資料３についてご説明します。

まず、資料３－１－１については、最新の世界自然遺産地域管理計画（案）で、修正箇所も全て溶け込みとなっているバージョンです。

現行版からの違いについては、次の資料３－１－２を参照いただくのが分かりやすいと思うのですが、こちらが現行の管理計画との違いの部分を赤字、あるいは青文字で全て示しています。

この遺産の管理計画につきましては、一昨年の令和５年度に主に議論をしていたところですが、事務手続上、作業に遅れが生じておりました。今年度に入り、やっと進められる状況になりましたので、６月からパブリックコメントで一般の方に遺産管理計画の案についての意見を募集し、１か月間募集をかけておりました。一般の方からの意見は特になかったということで、先日の科学委員会で改めて内容をご確認いただいた状況でございます。

ただ、一昨年度に最初の案をつくったものですから、記載が一部不足しているところもありました。有識者からの助言を受けて、例えば、新旧対照表の５ページ目の（２）世界遺産委員会からの勧告への対応状況のところ、最後に今年度の世界遺産委員会の状況について追記しております。他には、１１ページ目のヒグマの項目の中ほどに、２０２３年のヒグマの大量出没などで、ヒグマの個体数の推定値がかなり変化している可能性があるといった最新の知見を反映させています。あるいは、１６ページ目に、陸域及び海域の統合的管理という記載がある中ほどの部分ですが、岩尾別川においてのヒグマへの著しい接近、つきまとい等の行為が発生しているという状況をトピックとして追記しています。もう一点は、２１ページ目、③遺産価値の適切な提供と責任ある利用についてというところに、今年度の羅臼岳でのヒグマによる人身事故に関して追記をしており、最新の変更を加えた状態です。

こちらの内容については科学委員会からも了解を得たところで、資料３－２に今後の進め方を示していきまして、本日が最終案の確認というタイミングです。こちらのご了承をいただけたら、この後、各行政機関で管理計画の案の決定手続に入り、年度内に管理計画の新しいものを決定するといった流れで作業を進めたいと考えております。

以上です。

●事務局（北海道 島村） ただいまの報告に関しまして、ご質問等はございますか。

●羅臼漁協任田参事 羅臼漁協の任田と申します。

新旧対照表を見ていたのですが、資料３－１－２の４ページの（２）知床が有するその他の価値、上から８行目にアイヌのことを少し書いていて、その後に、「また、サケ類やホッケなどの資源の豊富で現在も漁業が盛んに行われており、地域を代表する産業となっている。」ということで、漁業のことについてはいいのですが、資源が豊富ということについてです。私がこの後に説明するのですが、現状、資源が豊富なのかということは疑問に思います。それについて、意見だけは言っておこうと思いました。

●環境省岡野所長 この後、午後にご報告いただける内容で、海が変化しているというお話をいただけるかと思います。ここに書いた意味合いとしては、知床世界遺産の自然の価値だけでなく、それがもたらすいろいろな恵み、それによって地域の社会や文化が成り立っている。そこも価値ですと言うために記述したところですが、そういう意味では、漁業が非常に重要ということで書かせていただいています。

仮に「豊富で」という文言が適切ではないということであれば、「サケ類やホッケ類などの資源を利用し、現在も漁業が盛んに行われている」という書き方もあると思うのですが、そのぐらいの書き方ではいかがでしょうか。

●羅臼漁協任田参事 資源が豊富だというのは２０年前ですか、その頃はそういう価値観はあったと思うのですよ。それが２０年経過して、知床半島を挟む斜里町や羅臼町も資源が大幅に減ってきているということは、恐らく皆さんも肌で実感していると思うので、そのことはきちんと整理して記載したほうがいいと思います。

●環境省岡野所長 そういう意味では、逆に海のほうは何も記述が…。

今回は気候変動の影響とか、そういったところを書き込んでいたりしているのですが、認識として、そういうことがあるというのは承りましたので、とりあえず、先ほどの文章はそこで修正をさせていただければと思っております。

ありがとうございます。

●羅臼漁協任田参事 ありがとうございます。

●事務局（北海道 島村） 再度、事務局で全体を確認の上、整理した後ほど共有させていただければと思います。ほかにございませんか。

●知床財団秋葉参事 知床財団の秋葉です。

溶け込み版の資料３－１－１の４ページ目に、「４．知床世界自然遺産の現状と課題」という項目があり、長期モニタリングの結果を踏まえて現状が記述されています。やはり



海洋環境の変化に伴うオショロコマの減少、サケ類の漁獲量の減少、ブリの増加、これにヒグマの問題などが課題として整理されており、任田氏の指摘については、この項目を必要に応じて追記したり、修文できればよいと思います。

ご指摘の記述がすでに記載されている項目があるので、そこの記載とうまく合うように整理ができればよいと考えます。

●事務局（北海道 島村） ほかにいかがでしょうか。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 ウトロ地域協議会の桜井と申します。

今の管理計画の見直しに関してですが、新旧対照表２ページで、管理計画の全体的な決めの中で、今回は管理計画の期間が新たに明記されていますが、この期間に関して「概ね」という表現があります。その下ですが、管理計画の期間と管理計画の見直しという部分を含めまして、どういう形で「概ね」という表現になったのかを確認します。

本当に昨今、気候変動、あるいは今の資源の変化、いろいろな形での変化が非常に多くなってきている中では、当初は予想し得なかったもので、計画期間を明記していくというお話を前回伺っていたと思うのですけれども、「概ね」というのはどういうことなのか。

もしかしたら、この中ではなくて、次に続く文章の中で、もう少し明確に大きな変化があったとき、あるいは、モニタリングをして、５年、１０年やっていった中で、かつては５年、１０年は短いなと思ったのですけれども、今、羅臼の方もおっしゃったように、２０年前から随分変わってきていると、これは危機感も含めて考えています。ですから、「概ね」という部分の取扱いの１０年というのはもう少し明確にしたほうがよいと思いますが、その辺はどうでしょうか。

●環境省岡野所長 ありがとうございます。

管理計画についてというか、遺産管理自体が今、桜井さんからご指摘いただいたように、長期モニタリングをしっかりとやって、その変化を見ながら対応していくと。その長期計画が１０年と定められているので、長期モニタリングを踏まえて、その状況に応じて見直していきましょうということです。

一方で、今ご指摘いただいたように、短期的な変化も起こり得ます。それがその次の段に書いてありますけれども、中間評価、５年のモニタリングであれば、それを前倒しすることもあり得ます。そういう意味で「概ね１０年」という書き方をさせていただいております。

目安としては１０年なのですけれども、状況に応じてそのタイミングは変わっていくので、きっちり１０年ということではなく、目安は１０年で、前後、その状況に応じて見直しをかけていきたいという趣旨です。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 「概ね１０年」という部分は、大体そう考えているけれども、これがもう少し早くなることもあるという意味合いを含めて考えていいのでしょうか。

●環境省岡野所長 そうですね。下に書いてありますように、中間評価及び総合評価の結

果を踏まえて、必要に応じて、ということです。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 分かりました。

●事務局（北海道 島村） ほかにいかがでしょうか。

●羅臼漁協任田参事 新旧対照表ですが、5ページの（2）世界遺産委員会からの勧告への対応状況ということで、今回新たに加わったということですがけれども、その下から4行目です。

2025年の第47回云々と書いてあって、その次の行に「十分な資源の配分の確保、トドの個体群管理」云々とあります。ここで言っている十分な資源の配分の確保という意味が、魚の資源のことを言っているのでしょうか。そうではないですよね。ぴんとこなかったものですから、その辺を教えてください。

●環境省岡野所長 ご指摘ありがとうございます。

今の件は、先ほどご説明があった世界遺産委員会の決議案、資料2-2から引っ張ってきているところですがけれども、3ページの決議3に気候変動に係る順応的戦略の最終化を歓迎します、それに加えて、「気候変動の影響に関する長期的なモニタリングや同資産のOUVの継続的な保護を含め、その実施のために十分な資源の配分」と。ここの「資源」でございまして、これは遺産を管理するための、行政機関の様々なモニタリングや、そういったものに必要なお金や人を確保してやりなさいという資源になります。遺産管理のための資源であり、漁業資源ではございません。

●事務局（北海道 島村） ほかにいかがでしょうか。

●湊屋羅臼町長 羅臼町の湊屋です。

今のことで、トドの話が出ましたが、どちらの側面もあると思っています。保護をしなければいけないというところと、漁業に対して、今、これだけ資源が少なくなっている中で、トドの被害が億単位で出ている年もあるのです。それを、羅臼町や、隣町の標津町や別海町と一緒に、北海道や水産庁に対しても、管理頭数の増大の要請をしている立場なのです。

そういうときに、科学委員会の考え方というのは、頭数も含めたしっかりとしたデータを基に管理をしていくということでしょうけれども、肌感として、どちらにウエイトを置いているのですか。

●環境省岡野所長 ありがとうございます。

トドの問題は、世界遺産に登録されたときから、私が担当したときから課題になっていて、地域ではかなり漁業に対する大きな被害があるということで頭数を増やしたいと。

一方で、IUCNが、これは国際的な絶滅危惧種だから捕らないよという話をして、いや、必要だから捕りますという話をずっとしていて、では、どこまでの頭数を捕ればいいのかと考えるときに、ちゃんとモデルを組んで、個体群が減らないよということをして科学委員会から説明していただいて、その結果、今回は枠が増えた形になっています。

ですから、科学委員会は地域のために、枠を広げるために、それを対外的にIUCNに

説明するためにやってきていただいたというスタンスです。

●湊屋羅臼町長 今年はずが若干増えました。僕らとしては若干なのですけども、ずが増えたのは喜ばしいことでもあるのですが、実際の被害の状況から見ると、それが適正なのかどうか。

それから、個体数調査と言いながら、羅臼町でも漁協を中心にやっていますが、実はロシアとの関係があって、全く調査ができない状況でもあります。半分から向こうの調査はできないわけですから、どういう基準の下にそれを考えていくかというのは非常に難しい問題だと思っています。

ただ、片方で自然遺産を抱える自治体として、保護とか、むやみにトドを捕ろうとは思っていませんが、漁業との両立を考えた場合に、そこははっきりしていかなければいけないと思っています。漁業者に対してもそうですが、片方で保護する立場で議論をしながら、もう片方でどんどん減らしていきたいということは矛盾しています。あなたたちはどっちなのかと聞かれる立場になってしまう、それは避けていきたいと思っています。

ですから、こういった出し方というのは、僕らも気をつけなければいけないし、誤解をされないようにしていかなければいけないと思います。適正な数というものがどこにあるのかということの根拠がどうしても決まらない状況なので、今後は注視していかなければいけないと思っています。

ですから、科学委員会の皆さんがどっちのスタンスにいるのか、それによって文章が全く変わってきてしまうので、そこは、これに携わっている、科学委員会と接している方々に、その辺も含めてしっかりとお伝えいただきながら文章をつくってほしい、計画をつくってほしいと思っています。

●事務局（北海道 小峰） 事務局の北海道庁からお答えいたします。

今のご意見はすごく重要だと思っているのですけれども、今回のトドの関係で言えば、世界遺産委員会の決議でもご指摘のあるところで、何らかの対応が必要になりますが、その中で、例えば資料の作成をする際に、具体的にどういう文言になるかというのはこれから検討していくのですけれども、今回いただいた保護と漁業の両立に関するご意見も踏まえて、そこを調整しながら対応をしていきたいと思っております。

今の段階では具体的なご回答はしかねます。

●事務局（北海道 島村） ほかにいかがでしょうか。

（「発言なし」）

●事務局（北海道 島村） ただいまの時間でいただいたご指摘の中で整理が必要な部分につきましては、事務局で整理した上で、皆様に共有させていただければと思います。

それでは、議事（４）その他ですけれども、意見交換の時間を設けさせていただければと思います。事前にメールでお伝えしておりますとおり、羅臼岳のヒグマ人身事故を踏まえた知床地域における利用とリスク管理のあり方をテーマに意見交換をさせていただけれ

ばと考えています。

まず、これ以降の進め方についてですが、意見交換の前に、事故の概要と、現在、知床ヒグマ対策連絡会議で検討している今後の対応等につきまして事務局から説明いたしますので、その上で、各機関での取組やお考えなどを共有したいと思います。そして、本日の会議で出た意見等につきましては、科学委員会や知床ヒグマ対策連絡会議などの場において地域の意見として共有させていただければと考えておりますので、ご意見等をお伺いできればと考えております。

それではまず、事務局から事故の概要と検証の方向性（案）につきまして説明します。

当初は道庁ヒグマ対策室から説明する予定でしたが、急遽、都合が悪くなりましたので、知床分室からまとめて報告申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

●事務局（北海道知床分室 三井） それでは、資料４－１、資料４－２について、まとめて報告させていただきます。

資料４－１の事故の概要につきましては、事実情報を記載したものでありまして、既にインターネットでも公開されている内容でありますので、こちらの説明は割愛させていただきます。

資料４－２の検証の方向性（案）を見ていただきたいのですが、現在、羅臼岳のヒグマによる人身事故を受けて、知床ヒグマ対策連絡会議という場において事故の検証を行っているところでして、構成機関のそれぞれの役割などをここに記載しております。

まず１番目の検証の体制です。

事故の検証につきましては、知床ヒグマ対策連絡会議の構成機関のほか、有識者により構成されている科学委員会、ヒグマワーキング、適正利用・エコツーリズムワーキングでの助言を得ながら検討を進めているという状況になっております。各構成機関の役割分担については、下の表に書かれているとおりです。

２番目は、事故の原因の要因整理です。

事故の原因について、事故の発生に至った直接要因、登山者の意識、登山者に対する情報発信や注意喚起、登山道の管理などの間接要因、知床半島におけるヒグマ個体群の動態の変化や利用者の行動といった背景要因の三つの観点から整理しているものです。

３番目は、検証の方向性です。

（１）事故の対応につきましては、登山道における問題個体確認時の対応や、登山利用者への情報提供・注意喚起の方法、事故発生時の体制はどうであったかということです。

（２）事故発生の背景は、登山道に限らず、知床地域全体への情報提供がどうであったかということであります。（３）は、必要に応じて知床半島ヒグマ管理計画の見直しという観点で検証しております。

４番目は、再発防止策の検討です。

これにつきましては、検証結果を踏まえまして、再発防止に向けて取り得る対応を整理しているところですが、この下に書かれているものは現時点で考えられる対応の選択肢の

一例です。この後の意見交換では、登山道を含めた知床地域全体での利用に関するリスク管理のあり方として、情報発信、注意喚起、普及啓発の方法などについて、構成機関の皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。

関連して、10月8日に知床財団様の主催でクマ端会議が開催されておりまして、多くの地域住民の方に参加いただいて、ご意見や感想をいただいております。

そこで出た主な内容として、経済的な影響、地域に住む人と観光客の意識のギャップなどの感想、情報伝達や手段に関する意見、再発防止策に対する意見などが寄せられておりました。

最後に、ヒグマ対策連絡会議の報告ということで、本来はまとめて3月に報告しようと思っていたのですが、羅臼岳事故の部分に関しては報告させていただきます。

まず、6月に通常のヒグマ対策連絡会議の会議がありまして、その後の8月に事故が起きましたので、その後、臨時会を数回開いております。直近の10月17日の会議におきましては、今後の対策としまして、事故の検証と情報発信の方法の整理、登山道の入山管理の検討という三つの要素が必要であるということになりまして、その中で幾つかの具体的な対策を実施していこうと考えています。

登山道というのは、本来は自由使用の範疇で入山している場所なのですが、そういった中で情報発信などの対策をどのように行っていくかを検討しております。

説明は以上です。

●事務局（北海道 島村） 現段階での検討状況についての報告でした。

これ以降、できるだけ多くの皆様からご発言を頂戴したいと考えておりますが、観光で多くの方が訪れるこの知床ですから、まず最初に観光に及ぼした側面について意見をいただければと考えております。

本日は、斜里町の観光協会さんも出席しておりますので、お話を伺えたらと思います。

この事故はちょうどお盆の時期に重なりまして、登山者だけでなく、多くの観光客が訪れていた時期でもございました。風評被害をはじめ、この事故を受けて、観光にどの程度の影響があったのか、また観光客の方々からこういった声が寄せられたのか、また、これを受けての対応、もしくは取組などがあれば、併せてご紹介いただければ幸いです。

知床斜里町観光協会さん、いかがでしょうか。

●知床斜里町観光協会新村事務局長 知床斜里町観光協会の新村でございます。

まず、観光に及ぼした影響ということで、確かにお盆時期であったということがあります。そして、宿泊施設についても、登山のためにバスで来られるツアーみたいなものがあるので、それで200人から300人程度のキャンセルがありました。

登山客としてくると、キャンプ場とか、日帰り温泉施設とか、車中泊をされる方も結構います。道具のほうにお金をかけて、そういうところはできるだけ抑えてという話を聞いたことがあるのですが、本当の観光全体で言えば、宿泊客の数は去年並みで、がつつり落ちることはなかったです。

ただ、先ほどもお話しましたが、キャンプ場、日帰り温泉施設、実は我々はそこを指定管理で委託を受けているのですが、ここはがつつり落ちました。前年対比で言いますと、8月以降、登山道も閉鎖されていますので、売上げが30%程度落ちているという現状があります。

お盆の最中ということで、実際は知床五湖の駐車場が2日間閉鎖されたということで、そこで商売を営んでいる方もいらっしゃいます。そして、同じくカムイワッカ湯の滝、硫黄山登山、あそこも閉鎖といたしますか、カムイワッカ自体が、湯の滝のぼりができなかったということで、それなりのダメージは受けていると考えております。

我々としてのその後の取組というのは、周知、啓発だったと思っております。実際はヒグマにそんなに詳しくないのですが、我々観光協会としては、昔から、やはりヒグマを見たいというお客様は当然いっぱいいるので、そういう人たちに対しては観光船を勧めていくというやり方をしています。

観光客がそういうクマをつくったとか、人慣れさせるクマをつくるとか、カメラマンの人がどうこうとか、そういうものが先に走ってしまうと、この後にすごく影響が出ると思っています。そうならないためにも、我々としては、当然、情報発信、周知、啓蒙活動ということはあるのですが、大前提として、やはりヒグマの生息地であるということ間違いないので、そういうところですよということをきちんと分かっていた上で来ていただけるお客さん、そういう観光のお客さんが増えていけばいいかなと思っております。

観光協会からはそんなところです。

●事務局（北海道 島村） 実際に観光客の方々と接触されておられるお立場からの生の声として、貴重なお話だったと受け止めております。今年の影響もさることながら、来年以降の影響についても懸念されるところと考えております。今日頂戴しましたご意見などにつきましては、対策連絡会議など、様々な場面において参考とさせていただければと思います。

続きまして、知床ガイド協議会の皆さんにもご出席いただいております。

ガイド協議会さんからは、ヒグマのテーマに限らず、事前に一つご意見をいただいておりますので、まず、私から簡単に紹介したいと思います。その後、若干補足をいただいた上で、ヒグマのテーマに関してもご意見を頂戴できればと思います。

まず、事前に頂戴した意見ですが、登録当時から見ると、地球温暖化やシカの影響で見られなくなった植物があること、また、クマが食べ物を十分に取れないこと、園芸スイレンの異常繁殖など自然環境が悪くなっていることについて話題を頂戴しております。補足等があれば、後ほどいただければと思います。

また、今回のテーマであるヒグマに関連して、利用者に対してヒグマに関する情報やリスクなどを正しく伝えることが重要と考えておりますが、長年この知床を見つめ続けて、知床の魅力を伝えていく最前線のお立場で、ヒグマに関連して何か日々取り組まれている

こと、また、今後取り組む予定などがあれば、併せてご意見をいただければと思います。

●知床ガイド協議会岡崎会長 知床ガイド協議会の岡崎と申します。よろしくお願いいたします。

まず、僕は知床自体にすごく危機感を持っているのです。今こちらにいらっしゃる委員の方々に登録当時のことをご存じの方はどのくらいいらっしゃいますか。多分、80%いるか、いないくらいだと思います。登録されてから約20年ですが、このままいったら登録自体を返上しなければならないのではないかと、僕はそのぐらいの危機感を持っているのです。

私がやっているのはウトロ側ですが、自分が山に入っても面白くないです。なぜかというと、これは温暖化とかいろいろなことが複雑に絡んでいるのですけれども、観光でいらっしゃるお客様が一番多いのが知床五湖です。五湖の水面が昔より30センチから40センチ下がっています。全部湧水ですので、水の供給が少なくなっているのですね。これは雪が早く解けるということもありますし、昔は草原だったところが、今、全部がササとワラビになっています。畑です。草原でなくて、ワラビとササなのです。ササは僕の背丈ぐらいあります。ワラビもそのくらいあるのです。そうすると、雨が降っても地面に染み込んでいかないのです。そのため、どんどん水が少なくなっています。

ですから、今まででしたら春に草原で繁殖する鳥が随分いたのですが、それが1羽も来ていません。春の知床は非常に静かです。鳥の声は何も聞こえないのですね。これは海も同じです。水鳥が全然いません。温暖化で水温が上がってから、海鳥の餌になるイカナゴが全然いないので、子育てをしなくなったのです。観光船ですずっと海から陸を見てみると、崖が非常にきれいです。昔は鳥のふんで汚かったのですけれども、今は非常にきれいですよね。

ですから、そのようにどんどん変わってってしまうのです。

今、ITに対して一生懸命お金を使おうとしていますけれども、その前に自然を守るためにお金を使っていたかと思っているのです。このままいったら、本当に全然面白くなくなります。

雪も早く解けますから、今までは雪の下にあった植物が早い時期にみんなシカに食べられてしまうわけです。大きなナニワズの群生地があったのですが、それが全滅しています。

それから、雪があれば、クマが3月末に穴から出てきますけれども、そのときに食べるものがないですから、シカを襲って食べていました。そういうところがあちこちで見られました。

今は雪がないですから、追いつかないから、食べるものが全然ない。草も植物もないですから、全部先にシカに食べられています。知床の自然はこんな状態でいいのですか。どこが世界遺産なのですか。それと外来種も増えています。アメリカオニアザミというものが遺産前にも相当あったのですが、大分きれいにして、それで遺産に選定されたのですけれども、この頃、それがぼこぼこ見られます。僕が見たら、目の敵にして切ってしまいま

すけれども、どういうわけか、財団が森を再生させている箇所にはいっぱい生えているのです。

ですから、この頃、知床財団の職員は新しい人が多いですけれども、ちゃんと教育しているのですか。教育されていないのではないかと、分かっていないのではないかと思っているのです。

森林の管理をいろいろやっていただいているのですが、そのそばにアメリカオニアザミがいっぱい咲いているのです。あれは咲いているうちに切らなければいけなくて、それが全部、種になって飛んでいるわけですよ。この間は、センターの駐車場に2本ばかりあって、種が飛んでいました。

こんな管理状態でいいのですか。これで世界遺産ですと誇れますか。

来るお客さんは分からないからいいですけれども、私はずっと昔から見ているので、これは何だよ、これで世界遺産かよ、一種の詐欺ではないか、そのくらい思います。

それを直していくにはお金が非常にかかるわけです。ITも大切かもしれないですけれども、外来種対策ですね。五湖にはミンクもいますからね。そういう対策にもう少し重点を置いていただきたいのです。

クマに対しては、クマ対策ではないのです。一番大切なのは人間対策なのです。人間にクマのことを分かってもらわないと、こんな状態がいつまでも続くと思います。一般の人はクマのことを知らな過ぎますよね。

今、日本全国でクマの問題が起きていますけれども、役所の人は、クマのことを何も分かっていなくても、偶然、担当になってしまったから一生懸命やらなければいけないということでおたおたしていますが、知らない者同士が対応していて、それで猟友会に丸投げしてしまっている、だから問題が起きるのです。ですから、人間のほうのクマ教育が必要ではないかと思うのです。

せめて、知床に来た場合に、お客さんには基本的なことだけは分かってほしいのです。僕はお客さんを連れてずっと歩きますけれども、何回もお客さんと一緒にクマに会います。僕が会うときは近いのです。あっちにクマいますよ、ではないのです。そこにいますよ、なのです。クマが全然動いてくれないのです。僕が行くと分かっているのに動いてくれない。向こうも分かっているのではないかと思うのですけれどもね。でも、お客さんも、クマがいても何も騒ぎませんので、その場所、場所によって対応していきますけれども、そんな状態です。

ただ、ガイドがいないです。今、ガイドも若い人がどんどん増えているので、先日、試験に立ち会っていたのですけれども、みんなクマに特化してしまって、知床のことを分かっているいな、これは知床のことを教育しなければいけないな、そんなふうに思っているのですけれども、最終的には人間教育が一番大切なのではないかというのが僕の感想です。

●事務局（北海道 島村） 岡崎様、ご発言ありがとうございます。

長年、知床を見つめ続け、日々、最前線で取り組まれているお立場からの生の貴重なご



意見と受け止めております。

気候変動対策につきましては、先ほど議事（３）でも説明がありました管理計画改定案にも対応が盛り込まれておりまして、今後はこれらに沿って取り組んでいくこととなります。一言で解決策を表現するのは難しいですし、短期的な解決もなかなか難しいと考えておりますが、まずはこうしたご意見をいただいて、課題を皆さんで共有した上で、関係機関で最善と考えられる策について検討して対応していくことが求められているということを理解しました。大変ありがとうございました。

今のご意見に対して補足などはございますか。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 ウトロ地域協議会の桜井です。

岡崎さんが言ったことと少し関連するのですが、私は以前も世界自然遺産の地域連絡協議会、あるいは、どこの場面だったか忘れたのですが、先ほど出た外来種に関して、そして植生の変化という部分は、岡崎さんが言ったことと同じで、植生の変化という部分も、もしかしたら知床に生息するヒグマに関係してくるのかもしれない。

ここが世界自然遺産に登録された一つの大きな理由は、生態系の循環であるわけです。そこは、最高位にヒグマがいて、海域、陸域の中に生息する動植物ももちろん入っていて、その循環というものが、岡崎さんの話の中では植生の部分では壊れてきているのかな、変化しているのかなと感じます。

ですから、海域、海鳥、動物、そして環境的な部分が多いのですが、植生も重要になってくると思います。あるいは昆虫系ですね。要するに、植物があったら、それに付随する昆虫もいますから、その変化のモニタリングもこれから重要になってくると思います。

今後、外来種を含めての影響というのは、単にアメリカオニアザミが増えているだけではなく、それによって駆逐される植物もたくさん出てきますし、ほかのものが入ってきたことによって樹林帯の表面の植生がどんどん変化するということは、どこの地域でも言われています。もちろん五湖のスイレンの駆除というのも本当に大切な動きだと思っていますし、そういったピンポイントだけではなく、全体的な流れの中のモニタリングにぜひ力を入れていただきたいと思います。これは私からのお願いです。

もう一点、ヒグマの件に関してですが、本当に痛ましい事故でしたし、知床の海域で起きた観光船事故のときもそうだったのですが、もっとやっておくこと、できることがあったのではないかとすることは地域でも本当に大きな反省になっています。

そうした中で、今回の事故に関連して、２０２５年３月２１日に報告された斜里町で取り組んだ知床アクティビティリスク管理体制検討協議会というのがありまして、岡崎さんたちが所属しているガイド協議会なども直接的に関わっているのですが、そこで知床のアクティビティに関するリスク管理マネジメントの指標を示したものがあります。今もホームページの中で公表されていると思うのですが、今回の事故を教訓に組み入れて体制として変わったことがあるのでしょうか。斜里町ではどこまで取り組んでいるのでしょ

うか。

以前はエコツーリズムの中でも検討協議会の報告がなされていて、今回は観光に関する部分のアクティビティとなっているのですけれども、検討協議会の中で今回の事故をどのように捉えているのかという報告はここに上がってきていないのでしょうか。

●事務局（北海道 島村） アクティビティリスク管理体制検討協議会を運営している斜里町さん、いかがでしょうか。

●斜里町総務部茂木部長 私は斜里町の総務部長しています茂木と申します。

私はアクティビティリスク管理体制検討協議会に参加できていませんので、少し申し上げにくいところではあるのですが、これまでは、いわゆる観光ベースという考え方の中で、アクティビティリスクの取組を続けてきてもらっていますけれども、そこに今回の山の事故が重なったということで、発信の仕方や、どのように知ってもらえるかが大きな課題になったと理解しています。ただ、そこはまだ組立てができていないと思っていて、これまでの流れを踏襲して積み重ねていくという段階にすぎないという状況です。

いずれにしても、今後、今お話があった船のこと、それから、今回の山の件が重なってきたということもありますので、その点については非常に重たいことだったという理解の下に、どのように知ってもらえるかというところを中心に考えていくしかないと思っています。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 ぜひ地元、現場でアクティビティに関わる方、アクティビティを観光としていらっしゃる方々に対応するところも、アクティビティのリスク管理をする協議会を設置されていて、それに基づいてガイドの皆さんも動いていらっしゃる中では、今回、知床財団の報告を含め、全体的な動きの中で、こういった協議会が十分に活動できるようにしていただきたいと思います。それを含めて、エコツーリズムのほうでも大きく影響があると思うので、対応をいろいろ練っていくことが必要だと思います。

もう一つ、意見交換という中では、今回、痛ましい事故が起きてしまった中では、例えばこれは地域でも声が出ていたのですけれども、登山道にこういうリアルな看板を、登るときに看板を設置して、ここに熊が出ていますではなく、実際の登山道上に、ここからここまでの区間、今あなたがここからヒグマがというような危険表示をやるところはどこになるのでしょうか。

いつも思うのですけれども、それを誰に聞けばいいのか分からないのですが、もしもそういう看板が、1年の中で、しかも初めて知床の山に登る方が一番多いときではないかと思うのですけれども、そういうときに、ある程度のリスク管理、注意喚起ができていたらよかったのではないかと思います。

もしそういう管理をやるとしたら、どこでやる形になるのでしょうか。

今歩いていて、小屋から560メートルぐらいの上がったところで、ここから少し先でヒグマが昨日も出たのか、なかなか逃げないヒグマがいるということが分かる看板があったらよかったなといつも思っているのです。

そうしましたら、少し早く歩く人がいるかもしれないですし、あまり周りを見なかった人もそこで看板を見れば分かるかもしれません。それが必要かどうかは分からないのですけれども、そういうことをやるとしたら、世界自然遺産に入っている知床の登山道についてはどこがやるべきとなるのでしょうか。

●事務局（北海道知床分室 三井） ただいまのご質問につきまして、事務局からお答えいたします。

まず、今言われたことの対策は、今考えている対策のうちの一つにも入っているのですけれども、どこがやるかという話になりますと、私からも言いづらいのですけれども、基本的には国立公園内で事業執行している部分については国立公園のほうでできるのですけれども、それ以外の、単に国立公園の区域だけというところは、そこまでやれるというのは恐らくないと思うのです。

ですから、そういった周知につきましては登山道の入口でやるしかないと考えておりまして、例えばヒグマが出た箇所に看板を立てるのは、そこまで看板をつけにいくというのは現実的には難しいと考えています。まずは登山道の入口で規制線みたいなものを張ってそこでまず注意喚起をして、その場所においてリアルタイムでいつヒグマが出ていますという表示をするという考えが出ておりまして、そういった議論の経過はあります。

●事務局（北海道 島村） ただいまの回答に対しまして、環境省さんから補足等はございますか。

●環境省岡野所長 どこにクマがいるかをダイレクトに把握できるという方法自体がないと思います。

確かに注意喚起は重要ですし、それをどう強化するかということが今後は重要だと思っているのですけれども、先ほど桜井さんがご紹介されていたアクティビティリスクのところでも、サイトのリスクと付加的リスクと細分化されていて、ヒグマは天候と同じような付加的リスクという扱いになっています。それを利用者なりが情報から判断するということですので、その情報をいかに流していくかが大事になってくると思います。

その中で、ヒグマの今の状況も、ダイレクトに把握できているわけではなくて、下りて来た方から情報をいただければ、それを回収して反映しているという状況です。

そのため、その時点で既に過去の情報でしか伝えられないというのが現実的なところで、それもできるだけ伝えているのですけれども、より細かく知っていけばいくほど、では、ここにはいないのかという逆のメッセージとして伝わりかねないというところで我々は非常に悩んでいます。

そこを伝えるためには、さっきおっしゃっていただきましたが、ここにヒグマがいることを想定して、こういう行動を取ってください、こういう準備をして行ってくださいということを強く、実際にそうしていただけるように伝えるということがすごく重要になります。

それに加えて、できるだけ情報を集めながら提供することはしていきたいと思うのです

けれども、細かくするという事は、逆に言うと、ないところは安全なのかという情報にもつながりかねないので、今、関係機関で悩みながら議論をしております。

●事務局（北海道 島村） ほかにいかがでしょうか。

●知床財団玉置事務局長 知床財団の玉置でございます。

岡崎さんと桜井さんからお叱りの部分も出てました。オニアザミに関しては、財団職員の教育がなっていないのではないかとされたところは、私の不徳の致すところかなと反省をさせていただいて、岡崎さんから、センターの駐車場にあるオニアザミについてはイベントのときにも言われておりましたので、来春以降にご期待いただければというのが1点です。

それから、岡崎さんと桜井さんからおっしゃられていましたし、岡野所長からもありましたが、やはり我々としましては、情報発信の仕組みというところが一つあると思っています。今回も我々の反省だと思っているのは、いろいろな情報を出せばいいということではなくて、受け取る側の行動を変容させる情報発信とはどういうことなのか。行動を変えていくようなナッジの仕組みとかいろいろあると思います。今、協議体の中でいろいろお話をしています。

あとは、知床国立公園には熊がいるということの仕組みですね。新村さんから、クマを見たいお客さんがいるよ、船で見せるよというのからもう一步進めて、今はクマに会えてしまっているということです。見せたいわけではないけれども、見られてしまう仕組みがあります。我々は仕組み化しているつもりはないのですが、仕組みになっているわけです。これをどのように上質な体験として見せていくのかという仕組みを考えなければならぬというのは、財団としてというか、私個人もそうですけれども、これからの課題なのだろうと思います。

それから、現状、我々が行っている対策は、隙がないように現状をブラッシュアップして、改めて対策を見直した上でどんどん進めていくということを考えています。

●事務局（北海道 島村） 続きまして、本日は羅臼漁協さんにもご出席いただいております。

この地域で暮らす住民の立場、例えば人慣れしたヒグマを生み出さないために、ごみ出しの面で気をつけられているとか、地域で草刈りを行っているなど、今回の事件を受け止めての地域の変化や、地域住民の意識などの変化につきまして何か感じられることはありますか。もしくは、漁業に携わっているお立場で、ヒグマとの付き合い方について意識の変化、または我々行政に対してのご意見などがございましたらお聞かせ願えればと思います。

●羅臼漁協任田参事 突然振られて困っています。

特に行政にどうこうという話はありません。ただ、羅臼もそうですけれども、ヒグマが出る、常に出るということで、私も何回か、自宅付近ではないですが、違うところで何回か遭遇してしまっていて、そのときは嫌な動物に会ったなと思いました。極力、クマが近づか

ないように町内会で草刈りをするとか、ごみについても前日に出さないとか、ごみ収集の当日に出すとか、それから、この時期になると、ソウハチガレイが非常にあがっていて、干すと非常においしい魚になるということで、恐らく漁業者の皆さんも干すと思うのですが、その辺のやり方ですね。これだけ食べ物がなくなると、私たちでもいい匂いがするものですから、当然、クマにもいい匂いがするので、寄ってきてしまうということもあります。ですから、その辺のやり方にいろいろと気を使って魚を干すこともしているのだと思います。

はっきり言って、ここに住んでいる以上、お付き合いをしなければならないので、会いたくないですけれども、うまく共存していかなければならないと思っています。

ただ、時と場合によっては捕らなければなりません。先日、動画でも一部配信がありましたけれども、国道の上で親グマがシカを襲って捕っていた。ああいうのが常にあるわけではないのですけれども、今はああいうものがSNSでどうしても発信されてしまうというのが非常にネックになっていると思います。それで注目されてしまうということがあると思います。羅臼や斜里に行くとクマが見られる、見たいということがあるのだと思うので、そういった情報の発信をできるだけ、その人はよかれと思ってやっているのかもしれませんが、それが裏目に出ることもあると思うので、それは防げないのかもしれないけれども、そういうことが極力ないのが望ましいと思っています。

あとは、クマを捕ったという話を外に出さないというのが一番ではないですか。静かにしているということです。

最近全国各地でクマが多く出て捕ったという話がすごく注目されているので、国も予算化をしようということで動いているようですけれども、私たちから見れば、魚が捕れないので、再生資源に関わる費用を出してもらいたいという気持ちでいっぱいです。

●事務局（北海道 島村） ありがとうございます。

この地域で自然と共生しながら暮らしていくための貴重なご発言だと受け止めております。一方で、事故から間もなく3か月が経過しますが、知床財団の皆様におかれましては、現場の最前線として、本当に当時から迅速かつ的確に対応をしてこられました。

例えば、情報発信の面では、今回の事故直後、真偽が不明な情報や正しくない情報がネットを中心に錯綜する中、公開できる限られた情報、正しい情報を早急に、かつ、短時間のうちに丁寧に発信してくださいました。注意喚起、正しい知識の普及の面でも、この迅速な行動は大変大きな意味を持つものと考えます。

さらには、日々の暮らしが不安な中、地域住民の方に向け、クマ端会議という地域参画の場を企画されておりまして、地域の皆さんと一緒にこれからのことを考える場を10月に開催されていると承知しております。

情報発信、注意喚起、普及啓発という観点から、財団様の取組の中でこの場で皆さんに紹介していただけるような話題がございましたら、ぜひご発言をお願いします。

●知床財団村田理事長 ありがとうございます。

ヒグマにかかわらず、我々は全然完璧ではありませんし、先ほど岡崎さんからもいろいろなお指摘をいただきました。個別のご指摘だけでなく、世界遺産全体に関わることで、我々はいろいろな意味でつなぎ役という認識を強く持っております。何をつなぐのかというのは、世界遺産に住んでいらっしゃる方であったり、ここにいらっしゃる行政機関、各機関のいろいろなつなぎであったり、我々がコントロールするという立場ではなくて、いろいろな情報の集約場所として、我々を使っていたり、我々も出せる情報とか、知見を出せるものは出していくような立場なのかなと思っております。

そんな意味では、我々が発信したり、どんどん使っていただくことは構わないし、我々もそういう役目があると思っていますけれども、その基になるのは、やはり環境省さんであったり、林野庁さんであったり、関係する国の機関、あるいは北海道と両町におけるいろいろな動きであったり、思いであったり、我々はそんな間にいると思っています。

我々が独自に何かを発信するということはあまりないと思っていますが、こういう地域連絡会議の場であるとか、科学委員会といった軸のいろいろな場を通して、我々を通して動かしていったほうがいいようなことや、行政機関、特に地域、地元の自治体であれば、国とか北海道に直接という動きもあろうかと思しますので、そういったあたりは連携しながら、知床をベースに、皆さんも含めて一緒にやっていく、そんなスタンスでいけたらいいなと思っています。

あるいは、そんなことを進める上での役割を改めて見直すとか、先ほど20年という話も出ていましたけれども、20年を踏まえて次のステップに進めなければならないと。

岡崎さん、私は直近に遺産を返上しなければならないとは思ってはいないのですが、課題は課題で個別に解決していかなければいけない、それは皆でいくことですし、皆さんも力を借りなければ、ガイド協議会とか地域の皆さんの力を借りなければできないことばかりだと思いますので、楽しい話題ではないかもしれないですが、そんなことを思いながら日々の仕事をさせていただいていますので、ぜひどんどん使っていただければありがたいと思っています。

少しとんちんかんな話になりましたが、いろいろな課題がありますので、我々も参加しながら一つ一つ丁寧に進めていきたいと思っています。引き続きよろしくお願いします。

●事務局（北海道 島村） ありがとうございます。

知床財団様には、引き続き、保全管理等につきまして様々なアドバイスなどをいただきながら進めてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ヒグマに関するテーマにつきましてはこの辺で締めたいと思いますが、事務局から何かございませんか。

（「発言なし」）

●事務局（北海道 島村） 環境省さんから何かございませんか。

（「発言なし」）

●事務局（北海道 島村） 皆様には、大変活発なご意見、ご議論、ご協力をいただきま

して、ありがとうございました。

本日、皆様からいただきました貴重なご意見につきましては、今後の対策や行政の施策を検討する上で大変重要な位置づけとなることは言うまでもありません。本日いただいたご意見につきましては、地域の意見として、科学委員会、または知床ヒグマ対策連絡会議など、しかるべき場において共有させていただきたいと思います。

最後に、ウトロ地域協議会様から一つご意見を頂戴しておりますので、ご発言をお願いしますか。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長 ウトロ地域協議会の桜井です。

世界遺産知床に本当にたくさんのお客さんが来てくれます。その中で、私たちは、知床峠を越えるときに世界自然遺産に登録された知床の価値を目にすることができますよというお話をよくさせていただきます。

そこで、こういう場で言うようなことではないと思うのですが、ぜひ北海道にお願いなのですが、知床峠の駐車場に設置されているトイレについてです。

数年前、何年か前に非常にいい形で改良が行われて、以前よりも大変使いやすくなり、なおかつ、そこに体の不自由な方、ユニバーサルトイレのブースも1個設置されました。車椅子の利用、あるいは足腰の弱い方々が利用するトイレを設置していただいたのですが、実は、そのトイレは車椅子の方は使えないのです。トイレのブースに行く前に階段があるのです。私はそのうち直るのだろーと思っていたのですが、直ることはなく、ほかの方に聞いてみたら、車椅子の方は結構困っていたという話がありました。

そのときに、あそこは国道334号線で国土交通省だからできなかったのかと思っていたのですが、どういう形で工事が行われているかを調べてみたら、そこにスロープをつけるとなると北海道さんかなと思いました。

ただし、遺産エリアの中のことで、工事はいろいろ大変だと思いますが、今後、ぜひスロープをつけていただきたいし、つけるべきだと思っています。そのときに、これは国土交通省になるのでしょうか、駐車場を横断することになりますので、安全対策が必要です。

せっかくこの場には関係機関の方々がたくさんいらっしゃいますので、単独で苦労してやるという形ではなく、どのようにしたら安全性も確保でき、なおかつ、せっかく設置されたトイレを使う方々にとって安全で使いやすい形になるかということを協議しながらつくっていただきたいと思います。

私は、2回、その場で車椅子を持ち上げてお手伝いをさせていただいたのですが、2人では持ち上げられない状態で、4人ぐらいで持ち上げてトイレを利用してもらいましたが、ちょっと大変でした。なぜ今まで誰も不満を言わなかったのかと思っていたので、ここでお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

●事務局（北海道 島村） ありがとうございます。

この件につきましては、先日ご指摘を受けまして、私どもで確認したところ、根室振興

局所管の公衆トイレになっております。

経過を確認したところ、令和５年度にトイレの改修を行っておりまして、併せて多目的トイレを設置しておりました。その際に、アプローチ部分のスロープについても整備する予定でしたが、その下のスロープを施工する事業者が決まらないまま、そこだけ置き去りにされてしまったということで、ちぐはぐな形になって現在に至っています。

これは、私としても直ちに解消しなければならないと考えておりますので、先日、根室振興局に速やかに解消するように既に指示を出しておりますので、今後の対応が決まりましたらお伝えしたいと思います。よろしくお願いします。申し訳ございません。

●ウトロ地域協議会桜井事務局長　よろしくお願いします。

●事務局（北海道　島村）　そのほか、何かご発言はございませんか。

（「発言なし」）

●事務局（北海道　島村）　なければ、本日予定されている議事は以上となります。

最後に、第２回地域連絡会議の開催予定地である羅臼町の湊屋町長からご挨拶をいただきました。存じます。

●湊屋羅臼町長　次回開催地である羅臼町長の湊屋からご挨拶を申し上げます。

今、桜井さんからありましたように、こういった機会を設けることは非常に難しいです。また、こういう会議になると、細かいことを言うのではなく、もっと大きなテーマでというふうになりますが、実は細かいことが非常に大事だと感じています。これだけ省庁の皆さんが参加して、ここでいろいろ活躍されている地元の人の声を拾っていただく機会、これは知床ならではのものであろうと思っております。

世界遺産２０周年というこの機に、こういった会議がさらに活発に行われることをぜひ望んでいきたいと思っております。いろいろなご意見が皆さんから出されましたし、聞いてもいただいたと感じております。

今の知床は、環境の変化によって魅力が失われている部分も確かにあると思いますが、まだまだいろいろな意味でポテンシャルの高い地域であると、私自身も思っていますし、多分、ここに住んでいる方や関係者の皆さんも思っているだろうと思っています。その上で、保護と管理と利用については、皆さんとしっかり議論していかなければいけません。

ただ、僕が一つ感じているのは、ポテンシャルは非常に高いのだけれども、利用のためのハードルが低いのではないかということです。そのルールであったり、人の意識であったりというところを、今後もそれに見合ったものにしていかなければいけないという思いを、今日、さらに強くしました。

望まない事故が起きたり、非常に残念なことがたくさん起こってしまった地域ではありますが、そこに住んでいる人たちの思いや、そこに住んでいる動植物もふくめてトータルで考えながら、利用者にもしっかり意識をしていただけるような、もう少し高いハードルを設けてもいいのではないかと、そういう地域なのではないかと思っています。

自然を楽しむ、自然を利用するのはタダだという考え方が日本には古くからあるのでし



ようけれども、欧米的な考え方や取組のよい点はしっかりと取り入れていきながら、日本、もしくは世界の最先端の地域として、保護と管理と利用というものを今後も皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2回目は羅臼町です。皆さんのご参加をお待ちしております。

今日のご苦労さまでした。

●事務局（北海道 島村） 湊屋町長、どうもありがとうございました。

進行などで大変不慣れな点もありましたが、おかげさまで無事にここまで進めてくることができました。今日は本当にどうもありがとうございました。

次回の地域連絡会議は、来年3月に羅臼町で開催を予定しております。

また、今日の午後1時から知床財団様主催のシンポジウムを予定しておりますので、引き続きご参加のほどをよろしくお願いいたします。

#### 4. 閉会

●事務局（北海道 島村） 以上をもちまして、令和7年度第1回知床世界自然遺産地域連絡会議を閉会いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上